

町の生活情報紙
— HIDE PUBLIC RELATIONS —

広報いいいで

3

10, March
2011
Vol.1008



spring has coming soon!

- 02 いいで人語り さよ一座／宇山基道さん
- 08 表彰受賞者の紹介
- 09 がんばりの軌跡～町民・小学生スキー大会結果～
- 10 まちかどNEWS
にぎわい再現プロジェクト委員会活動報告会／「いいでスポーツクラブ・キララ☆」設立記念式典ほか
- 12 直伝おふくろの味
- 13 子育てファイル／あ～す図書室情報
- 14 ようこそ！わたしたちの倶楽部に／町長の見て歩き
- 15 にぎわい茶房協力店募集
広報いいで定期購読・縮刷版販売のお知らせ
- 16 お知らせ／戸籍の窓／人の動き／編集後記
- 18 巨大紙風船に地域の願いを込めて～中津川雪祭り～
- 20 町宝いいで～木造不動明王及び二童子立像～

町のホームページから

さらに情報を！

町からのお知らせや情報は、
飯豊町ホームページ www.town.iide.yamagata.jp
でも紹介しています。
知りたい情報は、「検索キーワード」を、ホームページの検索ボックスに打ち込んでください。当該ページへ簡単に移動することができます。

こちらのボックスに「検索キーワード」を打ち込んでください。



表紙

今月の親子

椿在住

井上飛竜さん(32歳)
美希さん(32歳)
桜良さん(9歳)
竜汰くん(8歳)
桜汰くん(4歳)
陽汰くん(9ヵ月)



左上から時計周りに美希さん、陽汰くん、飛竜さん、竜汰くん、桜良さん、桜汰くん

4人きょうだいの井上さん家族は、にぎやかで楽しい毎日。でも、きょうだいげんかが始まれば「まるで戦争のよう」と美希さんは笑います。家族の日課は、6人一緒にお風呂に入ること。「少しせまいけど、家族の絆を実感できます。長女と一緒にしてくれるまで続けたい」と飛竜さんは子どもたちを見つめます。



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

飯豊町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。これからも美しい景観と里山文化に磨きをかけていきます。

Sayoichiza

さよ一座

鈴木さよさん（高峰）・福原美枝子さん（長井市）

見て、聞いて、笑って、覚えて欲しい交通ルール

交通安全の啓発を目的に旗揚げされた「さよ一座」は、今年で20周年を迎える。小さな公民館から満員の大ホールまで演じる舞台はさまざまだが、お客さまに楽しく交通安全を学んでもらう姿勢は一貫して変わらない



さよ一座©1991年10月旗揚げ。長井警察署管内を活動拠点に、交通安全啓発の創作芝居を演じる。座員は長井警察署交通課交通係長の鈴木さよさん（高峰）と主婦の福原美枝子さん（長井市）のコンビ。その活躍はテレビなどのマスコミでも紹介され、管轄外の地域からも公演依頼は多い。「身近な言葉で、身近なネタを、身近な人になって演じること」をモットーとする。昨年度には、長年の功績が称えられ、長井警察署長感謝状を受賞

昨年11月28日、山形県民会館では「東北南部三県警察音楽隊演奏会」が盛大に行われていた。

山形・宮城・福島県の3県の警察音楽隊による合同演奏会。会場の約1500席は県内外からのお客さまでほぼ満員だった。

その舞台の袖で、鈴木さよさん（高峰）と福原美枝子さん（長井市）は、緊張で高ぶる鼓動を落ち着かせるのに懸命だった。二人がコンビを組む「さよ一座」が、この大舞台にゲスト出演を依頼されていたのだ。

この日は、高齢者が夜道を歩くときの注意点を伝える芝居を演じた。いつものように笑いをたっぷり交えて。セリフはすべて置賜弁にもかかわらず、二人の滑稽で軽妙なやりとりで、会場のあちこちから笑い声が沸いていた。

「出番前はとても緊張しましたが、いざ舞台上に立てば、公民館でおいちちゃんとおぼあちゃんの前でやるときと同じように、伸び伸びと演じることができました」

鈴木さんはそう言って、大舞台で演じきれたことに安堵した。

宮城県と福島県の音楽隊隊長からは共に「今回の合同演奏会の主役は、さよ一座でしたね」と声をかけられるほど、芝居は大成功だった。

大観衆の前で堂々と演じきれた理由は、さよ一座の20年間のキャリアにほかならない。旗揚げは、平成3年10月。

長井警察署交通課に所属する鈴木さんは、当時、長井市交通安全専門指導員を務めていた福原さんと一緒に、長井市内を回り、地域住民への交通安全教室を開いていた。

交通安全教室の悩みは、どこへ行っても聴衆の反応が少ないことだった。決まり切った交通ルールの講話に終始し、中には退屈して居眠りしてしまふ人もいた。

そんな中、鈴木さんが思い至ったのは、芝居による交通安全の啓発だった。福原さんに提案すると、「ぜひやってみよう」と快く返事が返ってきた。

さよ一座旗揚げの話聞き、賛同してくれた市役所や警察署交通課の仲間が、幟や舞台の背景、小道具作りを積極的に買って出してくれた。

「同僚や地域の方など多く

の人に支えてもらったおかげで20年間も活動を続けることができたのだと思います」と二人は周囲の協力で感謝する。

二人とも芝居の経験はまったくなかった。初めのころはなかなかセリフが覚えられず、台本を片手にしてお客さまの前で演じた。当然ながら、お客さまはしられた様子で盛り上がりにつけた。

「間の取り方や、セリフに合わせて体を自然に動かすこともままならなかった。せめて自分の役だけでもセリフをしっかりと覚えて、練習を繰り返すことが大切だと気づいた」と鈴木さんは振り返る。仕事が終わった後の夜や、休日を練習の時間に充てた。

「芝居の練習には広い部屋が必要。部屋を取れなかったときは、人目も恐れず、白昼に長井警察署の庭で練習したこともありました」と福原さんは笑う。

台本づくりは、鈴木さんが主に担当する。それを練習しながら二人で話し合い、アレンジを加えて、一本の芝居に仕上げていく。

初めのうちは、先駆けて芝居で交通安全室をしていた他県



芝居の打ち合わせをする鈴木さよさん（左）と福原美枝子さん（右）

の団体の台本を送ってもらい、それを参考にしたが、創作を重ねるうちに鈴木さんは置賜地域の実情に合ったものになる。

「身近な言葉で、身近なネタを、身近な人になって演じることで、お客さまは芝居に共感し、交通安全について考えてくれるようになりました」と鈴木さんは話す。

二人が演じる登場人物は、身近にいそいな「じっちゃん」と「ばっちゃん」だ。老人会費の集金やゲートボールへ行く途中の様子など、高齢者の日常生活を場面設定とする。交通安全教室に来た高齢者がより身近に感じようのだ。

さよ一座への

交通安全教室の依頼は後を絶たない。多い年では年間42回の教室をこなしたこともある。自治会、老人会、幼児施設の祖父母の会など依頼する団体は様々。ある夏の日には、自治会の集会に呼ばれ、公民館が改修中という理由で、会場がビニールハウスだったこともあった。滴る汗をぬぐいながら演じきった。

「地域の皆さんのご要望があれば、時間の許す限り、どこでもさよ一座の交通安全教室を開きたい」と二人は口を揃える。

その一方で、庄内地方や県外など遠方から依頼が舞い込むこともある。そういった場合は丁寧に対応しようとしている。さよ一座の初心である「地域密着の交通安全啓発」が、活動範囲を広げ過ぎておろそかになることを懸念していることだ。

「女性は声を出して笑い、男性は声を出さず、にやにやと笑う」と二人は指摘する。舞台で演じながら、どの場面でお客さまが笑ったのかを決して見逃さない。次の芝居のときや新しい台本を書くときに役立つからだ。

「一番喜んでくれるのは、方言のセリフなんです」と福原さん。

「なり（身）」、「がんきよ（眼鏡）」、「はやす（うわさにする）」…。聞かれることの少なくなった方言が、二人の口からポンポンとセリフで発せられるたび、お客さまは反応し、笑いとなる。祖父母または父母がよく使っていた言葉だと、若い人たちも懐かしみ喜んでくれる。世代を超えてだれもが地元の方言に愛着を感じていることを二人は実感する。

「人に何かを伝えたいときは、印象に残るように努力することが大切」と鈴木さんは指摘する。「芝居の良さは、目で見て、耳で聞いて、心に残ること。私たちの芝居を見て、交通安全のことを少しでも身近に感じてもらえればうれしい」

地元での知名度が広がり、町中で声をかけられることが多くなった。鈴木さんは、子どもから「三吉だ！」と役名で呼ばれたことも。

「地元の皆さんと笑いを共にしながら、これからもがんばっていききたい」と二人は顔を見合わせてうなずいた。

U y a m a M o t o m i c h i

宇山基道さん

音楽を通して「故郷（ルーツ）」の大切さを伝える

海に囲まれた町で生まれ育ち、プロのミュージシャンとして全国を旅して歩き、そして現在、山に囲まれた飯豊町にたどり着く。

宇山基道さんの歌う歌には、親子の愛と故郷の大切さを伝えるメッセージが込められている。



うやま・もとみち◎1975年12月、東京都大島町生まれ。高校卒業後、静岡県にある水産大学入学のため島を離れる。大学在学中、ダンスホールやバーなどでアルバイトとしてギターを弾き始める。大学卒業後、プロのミュージシャンを目指し、上京。松山千春氏、鈴木康博氏などのライブのギターを務める傍ら、自らの作詞・作曲活動とライブを展開。CDリリースのほか、エッセイ集の出版、故郷の小学校の校歌制作などを手がける。09年4月から飯豊町椿に移住。妻、長男の3人家族

海に囲まれた島で育った。「気の早い友達は、4月からもう海で泳いでいた」と宇山基道さん（もともち）は目を細め、故郷の伊豆大島での少年時代を振り返る。

基道さんは、三人兄弟の三男坊。家は水産業を営んでいた。祖父の代の最盛期には、島になかったお寺を私財で建てるほど、地元では有力な会社だった。しかし、時代とともに水産業は衰退。漁獲高は減少し、海運は大きな船会社にとって代わられる。

基道さんが物心ついたころには、会社は億単位の借金を抱えていた。資金面で全国を奔走する父に代わり、漁業で使う網の補修など家業のことはすべて母の仕事だった。

母はどこまでもたくましかった。いろんな大人がお金のことで家に来て大声でまくしたてても、母は「あんたたちにやるお金はない！」と、三人の子どもたちを背中隠して威勢を貫いた。

親はどんなことがあっても、子どもを守る――。基道さんは、裕福とは言えない家庭の中でも、親の愛に満たされて育ってきたのだった。

高校卒業後、静岡県にある水産大学に入学。初めて島を離れて生活を始めた。卒業後は地元に戻って仕事に就くことを家族は期待した。

だが、大学卒業後に向かった先は家族の待つ島ではなく、東京だった。在学中、音楽サークルに所属し、夜はクラブやダンスホールなどでギターを弾き歌を歌った。中・高校生時代に独学で覚えたギターだったが、その才能を店のオーナーに認められ、プロへの道を薦められたのだ。もちろん家族は猛烈に反対した。

基道さんの決意は固かった。挑戦する期間を3年間という約束で親は、上京することをようやく許してくれた。

もちろん上京してすぐに音楽で飯を食べていけるほど現実には甘くない。音楽活動で得られる収入は、生活費にほど遠い。しかも「音楽業界のあいまいさ」でギヤラを踏み倒されることもあった。ギヤラを洗われても、基道さんは仕事の依頼を断ることは決まらなかった。

「音楽業界に少しでもかわってなければ、ステップアップするチャンスを失ってしまうことになる。それにい

ろんなライブに参加したおかげで、多くの音楽仲間と出会うことができました」

だが、ついには半年分の家賃を滞納するまでに生活は追い詰められていた。両親と約束した上京から3年目を目前にして、プロへの道をあきらめかけた矢先、基道さんの元に一本の電話が鳴る。

「松山千春さんがバンドのギターを探している。宇山、やってみないか」。音楽仲間が授けてくれたチャンスだった。

「松山千春さんは、音楽だけでなく人生の恩師」と宇山さんは話す。

松山さんは、年間約80本のコンサートをこなしていた。バンドのギタリストとして、基道さんは全国を一緒に旅してまわった。松山さんの音楽事務所所属させてもらえることにもなった。ミュージシャンとして大きくステップアップを果たしたのだ。

「松山さんはコンサートの中で、必ず僕に僕の持ち歌を一曲歌う機会を与えてくれました。お客さまに『いい曲だから聞いてやってくれ』と」北海道の故郷を愛して誇り



にし、その思いを熱く歌う松山さんに、ミュージシャンとしても深く共感を覚えた。

もはや収入に困ることはなくなっていた。しかし、松山さんのギタリストを務めて4年後に、基道さんは大きな決断を下す。結婚し、子どもが生まれたことで、「地方に住

んで愛息を育てたい」と思うようになったのだ。自分が伊豆大島の海と両親の愛に包まれ育ったように、都会よりも、自然の中で伸び伸びと育って欲しいと。

松山さんには「どこに住んでいようが、このまま事務所に籍を置いていてもいいんだぞ」と言ってもらったが、基

道さんはそれに甘えず、音楽業界から身を引き、独り立ちして「自分の音楽」を続けることを選択した。

妻と話し合い、妻の実家の飯豊町に住むことを決めた。

「ギターを抱えて全国を旅してきたから、どこにでも住める自信がありました」

飯豊町と伊豆大島はまったく異なる環境であるはずなのに、人々の姿には共通点があると宇山さんは話す。

「海が時化ると漁師は、自然のことだとあきらめ、漁に出るのを控える。北国の人たちもまた、大雪は自然のことだとあきらめ、黙々と雪をかく。困難を素直に受け入れる広い心がある。都会の人にはない、自然と向き合う人たちの素晴らしさだと思います」

平成21年4月から飯豊町で新生活を始めた。介護の仕事をしながら、現在も音楽活動を精力的に続けている。

演奏する場所を選ばない。レストランや寿司屋、お寺の御供養にも招かれ演奏した。

地元で飛び込むことを大切にしている。大物歌手のギタリストとして大きなホールで演奏していたころとは全く次元は異なる。

「都会のお客さまに比べると、音楽を聴く行儀の悪さを感じなくてもいいですが、だんだんと身を乗り出し、演奏を本気で聴いてくれるようになる」と、とても温かい雰囲気のリライブが出来上がります」

「今、音楽を故郷に還元しているとき」と、基道さんは話す。都会で作られた流行ではなく、自然と人との交わりから生まれる音楽を目指したいと。

ライブで歌う曲はオリジナル曲も歌うが、『赤とんぼ』『ふるさと』など田舎から生まれた歌も演奏する。幅広い世代が一緒に口ずさむことができ、故郷は自分の原点であり、故郷を守る大切さを思い起こさせてくれるからだ。

また、これまでの人生経験を中学生、高校生たちに伝えて欲しいと講演依頼されることも多い。基道さんは、人の原点である「故郷と親を敬う気持ち」を次の世代へ歌と言葉で伝えようと努める。

長男には「つばき」と名づけた。自分のルーツが飯豊町椿と椿の花咲く伊豆大島にあることを、ずっと忘れないでいて欲しいからだ。

絶え間ない努力の 賜物

No.1

J A 山形おきたま飯豊地区青年部 J A 青年組織活動実績発表全国大会最優秀賞受賞



最優秀賞の記念品を手にする青年部の皆さん

2月15、16日の両日、東京都で行われたJ A全国青年大会「J A 青年組織活動実績発表全国大会」において、J A 山形おきたま飯豊地区青年部が最優秀賞に輝きました。「3つの『わ』を生み出す『ひまわりプロジェクト』～食と環境からの地域活性化をめざして～」と題し、長年取り組んできた食農教育や環境活動の実績などを報告。発表者の浅野克幸さん(添川)とパソコン操作者の井上達也さん(同)は共に「素晴らしい結果を出せたのは、先輩方や仲間の協力があったからこそ。これを励みに飯豊町だからできる環境に優しい農業を目指していきたいです」と受賞の感想を話してくださいました。

No.2

第二小学校 浅田千嘉子養護教諭 文部科学大臣優秀教員表彰受賞



後藤町長に受賞の報告をした浅田千嘉子養護教諭(右から2番目)

1月31日、第二小学校の浅田千嘉子養護教諭は、健康教育の取り組みが高く評価され、文部大臣優秀教員表彰を受賞されました。食育指導、肥満予防教室など個々に応じたきめ細やかな指導を心がけ、さらに「生涯にわたる健康的な生き方を子ども自らがつくる」ことを目標に、学校・家庭・地域と連携した子どもたちの健康と体力づくりの推進に取り組まれています。浅田養護教諭は、「このたびの受賞は、保護者や地域、先生方など多くの皆さんの支えのおかげです。これからも町内の子どもたちが健やかに育つよう職務に励んでいきます」と受賞の感想を話してくださいました。

No.3

渡部岩次さん(萩生) 山形県木炭品評会 県知事賞受賞



賞状を手にする渡部岩次さん

2月23日、中部地区公民館で行われた山形県木炭品評会において、渡部岩次さん(萩生)の生産した白炭(丸物)が最高賞の県知事賞を受賞しました。渡部さんは現在77歳で、炭焼きを始めて60年以上のベテランの職人。また、飯豊町木炭生産組合長、山形県木炭文化協議会副会長を務め、木炭の生産振興に活躍されています。今回出品した白炭は硬度、光沢などに優れ、審査員から高く評価を受けました。渡部さんは「いつも理想どおりの炭が焼けるとは限らず難しいところもありますが、炭を愛用して下さっている方々のため、これからもがんばっていきたくです」と受賞の感想を話してくださいました。



雪上のデッドヒート。声援に沸いた会場

町民・小学生スキー大会

2月13日、手ノ子スキー場で町民・小学生スキー大会が行われました。多くのスキーヤーが参加し、大回転やクロスカントリーなど各種競技が繰り広げられました。会場には多くのお客さまが応援に訪れ、選手たちのがんばりに熱い声援が送られていました。大会の結果は次のとおりです。



町民・小学生スキー大会結果

▼小学校の部

▽大回転

【4年男子】

①横山太一(手ノ子) ②井上豪也(手ノ子) ③高橋不動(第一)

【4年女子】

①伊藤瑞姫(手ノ子) ②齋藤耀(手ノ子) ③加藤佳奈(第一)

【5年男子】

①伊藤政也(手ノ子) ②寒河江亮太(手ノ子) ③渡部一馬(第一)

【5年女子】

①嶋貫舞(手ノ子) ②国分ちづる(第一) ③梅津優香(手ノ子)

【6年男子】

①宇津木拓海(第一) ②井上智晴(手ノ子) ③舟山響(第二)

【6年女子】

①国分つぐみ(第一) ②齋藤麻衣(手ノ子) ③齋藤怜那(手ノ子)

▽クロスカントリースキー

【4年男子】

①鈴木朋幸(中津川) ②鈴木光(手ノ子) ③富永翔也(第一)

【4年女子】

①佐藤歩美(第一) ②遠藤美鈴(第一) ③厚母春花(第一)

【5年男子】

①青木天翔(第二) ②志田郁弥(第二) ③舟山和己(第二)

【5年女子】

①横山芽依(手ノ子) ②遠藤優花(手ノ子) ③横山優花(第一)

【6年男子】

①鈴木大地(第二) ②鈴木翔太(手ノ子) ③伊藤篤(第二)

【6年女子】

①小川さおり(第二) ②川村沙音里(第一) ③高山天音(第一)

【リレー男子】

①手ノ子小 ②第二小 ③第一小

【リレー女子】

①手ノ子小 ②第一小 ③第二小

▼一般の部

▽大回転

【中学男子】

①小関大斗(手ノ子)

【青年男子】

①長岡幸希(中) ②長岡秀幸(中)

【成年1部】

①国分充(萩生) ②伊藤博文(高

峰) ③手塚孝雄(萩生)

【成年2部】

①佐藤利浩(手ノ子) ②平山直樹(東部) ③峯村英彰(黒沢)

【成年3部】

①熊野昌昭(手ノ子) ②松村藤夫(椿) ③伊藤憲之(手ノ子)

【中学女子】

①伊藤理沙(高峰)

▽回転

【中学男子】

①小関大斗(手ノ子)

【青年男子】

①長岡秀幸(中) ①長岡幸希(中)

【成年1部】

①上田靖(小白川) ②国分充(萩生) ③伊藤博文(高峰)

【成年2部】

①平山直樹(東部) ②佐藤利浩(手ノ子) ③井上浩利(高峰)

【成年3部】

①熊野昌昭(手ノ子) ②松村藤夫(椿) ③伊藤憲之(手ノ子)

【中学女子】

①伊藤理沙(高峰)

【成年女子】

①島貫絵里(萩生)

▽親子大回転

【低学年】

①寒河江秀憲・俊介(高峰) ②国分充・睦生(萩生) ③鈴木純也・琉生(萩生)

【高学年】

①宇津木敦・拓海(中) ②齋藤克幸・耀(手ノ子) ③小関大・梓乃(手ノ子)

(敬称略)

まちかどニュースは、皆さんの広場です。
地域のできごとやご意見などお気軽にお寄せください。
役場総務企画課総務情報室まで ☎72-2111内線224



にぎわい再現プロジェクト委員会活動報告会

2年間の活動状況を報告

2月12日、いいで旅館で「にぎわい再現プロジェクト委員会」活動報告会がありました。平成21年4月の発足から2年間にわたる活動状況を、「旅行系」「スポーツ系」「音楽系」「再発見系」のグループごとに報告。高橋勝委員長(添川)は、「委員同士の意見がぶつかることもあったが、みんなで町のにぎわいのために真剣に議論し、実行に移すことができました」と成果を述べられました。活動報告会で報告された内容は、町ホームページでも紹介しています。

中津川むらづくり講演会

定住促進の先進事例を学ぶ



2月16日、中津川地区公民館で、定住促進の先進事例を学ぼうと「中津川むらづくり講演会」が開かれました。これまでに約65世帯の移住受け入れに成功している福島県小野町の商工会事務局長・逢田守よもぎ た まもる氏が講師となり、田舎暮らしを希望する都会の人たちへのPR活動や官民一体で取り組む移住者へのサポート体制などの活動内容を講義。講演会に参加した地元の方など約30名は、熱心に耳を傾けていました。

つばき保育園でモンシロチョウが羽化

春を告げる白い天使



2月14日、つばき保育園で飼育していたモンシロチョウが羽化し、春の訪れを子どもたちに告げました。同園の年長組の園児たちは、園内の畑で捕まえた幼虫の飼育を10月から始め、サナギの状態を経て、このたび見事に羽化に成功させたものです。虫かごの中で羽ばたいているのを最初に気づいた後藤廉くんは、「見つけたときはびっくりしたけど、蝶々はとってもかわいい」とうれしそうに話してくれました。



「いいでスポーツクラブ・キララ☆」設立記念式典

誰でも気軽にスポーツを

2月19日、東部地区公民館で、「いいでスポーツクラブ・キララ」設立記念式典が行われました。会長には町体育協会会長の鈴木春夫さん(萩生)が就任。式典には関係者など約60名が出席し、あいさつに立った鈴木会長は「スポーツを通して、町民の健康増進と交流、そして町のにぎわいを目指してキララを盛り上げていきましょう」と呼びかけました。同スポーツクラブは、町のスポーツ振興と、誰でも気軽に多くのスポーツに参加できる場として活動していきます。

気象講演会

今年の天気はどうなる！



2月13日、めざみの里観光物産館で、気象講演会がありました。1年間の天気予測を農業に生かしてもらおうと、農業関係機関や事業所などで組織する町産米改良協会が毎年開催。講師は、農家で日本気象学会会員の鈴木二三子先生(福島県西会津町)。「4月には春爛漫の中でも低温の日があり、霜に注意」との予測もあり、会場に詰め掛けた約120人の参加者の中には、熱心にメモを取る方の姿も見られました。

外国人観光客受入事業

今年も台湾人観光客多数来町



今冬も台湾から多くの観光客が来町し、雪遊びを楽しみました。外国からの観光客誘致を目指す「インバウンド受入事業」は、町内観光業の法人や町観光協会などが協力し、一昨年から始まった事業です。今年も、円高などの影響で観光客数は約1,000人と昨年に比べ減少したものの、お客様は、スノーモービルやそりすべりなどを楽しみ、「白く輝く雪景色の美しさに感動しました」などの感想が聞かれました。



いいでスノーモービルまつり
(どんでん平ゆり園)



親子ヒップホップダンス
(中部地区公民館)



東部地区雪中ゲーム大会
(東部地区公民館前)

直伝おふくろの味



手軽に出来るこんぶの煮物

こんぶの甘酢煮

【材料】

◇こんぶ	200
◇砂糖	400
◇酢	1合
◇酒	3合
◇しょうゆ	1合

【作り方】

- ① こんぶは洗って、1時間ぐらい水につける。
- ② ①をざるにあげて水分を拭き取り、長さ20センチぐらいに切って、ゆるく結んでおく。幅の広いものは、半分に分るか、縦に切って結びやすい幅にしてから結ぶ。
- ③ 調味料を全部なべに入れて煮立てる。その後しっかりと冷ます。
- ④ ②を③に入れて、落し蓋をし、弱火で1時間程度、汁がなくなるまで煮詰めて、出来上がり。

長く保存ができて とても役立つ一品です

7年ほど前に、友達から教えてもらった料理です。材料に特別なものは必要としないので、いつでも手軽に作ることができます。

この料理は酢を使うため、長く保存できるのが利点です。タッパに移し替え、冷蔵庫に保存すれば1カ月程度はおいしく食べられます。お弁当のおかずや酒の肴、お茶請けなどいろんな場面で役に立ちます。

料理のポイントは、調味料を煮立てた後に、しっかりと冷ますことです（作り方③）。温かいままの状態では、こんぶを煮てしまうと煮崩れしやすくなってしまう。また、こんぶは身の厚いものを使うとおいしくできます。こんぶには鉄分やカルシウムなど栄養がたっぷり含まれています。ぜひお子様のお弁当のおかずを試してみてください。いかがでしょうか。



手ノ子地区
食生活改善推進員
五十嵐光子さん



こどもみらい館の予定表
(3月・4月の日程)

- 3月11日(金) 10:30～ 交通安全指導
- 17日(木) 10:30～ おはなし交流会
- 23日(水) 10:30～ ほのぼの講座
- 4月6日(水) 10:30～ おはなし広場
- 9日(土) 10:30～ ブックスタート広場
- 13日(水) 10:30～ あそびの広場
- 20日(水) 10:30～ かんがるー広場

ほのぼの講座

3月23日(水) 10:30～
こどもみらい館
「親子の触れ合いあそび」

インストラクターの
齊藤祥子先生が、子
どもの成長に合った
親子で楽しめる遊び
を伝授します。

episode

子育て応援
談
kosodate
ouendan

ただこねる子どもと向き合う
「目と目を合わせて…」

おもちゃ売場でおもちゃを買って欲しくて大泣きしている子どもを見かける。親は「いつもの悪い癖」とさっさとその場を立ち去ろうとする。子どもは泣きながら必死にその後を追いかける。

同じような場面になったとき、私は目線を合わせ、「今どうしても必要なものなのか」、子どもに考える時間を与えるように心がけた。今日は何を買いに来たのか、今日買わないと困るものなのか、丁寧に問いかけていく。やがて冷静さを取り戻した子どもの口から「今日でなくてもいい」という返事が返ってくれば、「我慢できてえらかったね」と頭をなでて、いっぱいほめてあげる。

「だめ！」の一言で無視されては、子どもは気持ちを泣いて訴えるしかできない。なぜだめなのか、子どもに考える時間を与えてあげたい。

●こどもみらい館 ☎72-3336

開館日/火曜日から土曜日 休館日/月曜日、日曜日、祝祭日
利用時間/8:30～12:00、13:00～17:00



今月の
おすすめ図書



児童図書

「てんとうむしのはじめてのレストラン」

さいとうしのぶ/作 アリス館

レストランに入ったてんとうむし。動物たちが、いろいろなメニューを食べています。てんとうむしを探しながら物語を楽しむ絵本。



児童図書

「パパはステキなおばさん」

石井睦美/文 あおきひろえ/絵
BL出版

小学2年生のまりの家は、ママが会社で働いていて、パパがお料理や洗濯、掃除をします。それを友達に笑われ、ママとパパ、どちらが家にいるほうがいいのか迷い始めますが…。

一般図書



「33人チリ落盤事故の奇跡と真実」

マヌエル・ピノ・トロ/著
大纏玲子/訳 主婦の友社

地下700m。わずか50㎡のシェルター。食料はたった2、3日分…。絶望視されていた33人の命はなぜ助かったのか。現地人ジャーナリストが克明に記録した感動のドキュメント。

一般図書



「きことわ」

朝吹真理子/著 新潮社

葉山の高台にある別荘で、幼い日とともに過ごした貴子と永遠子。ある夏、突然断ち切られた二人の親密な時間が、25年後、別荘の解体を前にして、ふたたび流れはじめる…。『新潮』掲載を書籍化。芥川賞受賞作品。

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日・祝日
- 問合せ先 町民総合センターあ～す図書室 ☎72-3111

ようこそ！ わたしたちの倶楽部に

スポーツ、音楽、芸術、史話、ボランティアなど町内には活動団体がたくさんあります。このコーナーでは、そんな皆さんの活動を紹介していきます。



シリーズ第1弾：スポーツ少年団

わかさバレーボールスポーツ少年団

- ◆監督／島貫潤一郎さん(萩生)
- ◆指導者／鈴木舞耶さん(萩生)、加藤智子さん(黒沢)、保護者の皆さん
- ◆団員／小学生16名
- ◆練習日／毎週火・金曜日(18:30~20:30)

●スポーツ少年団入団などのお問い合わせは、町教育委員会内スポーツ少年団事務局まで☎72-3086(町民スポーツセンター)

- ◆練習場所／第一小体育館
- ◆団員募集対象／小学生1~6年生(男子も可)
- ◆クラブのピーアール

団員はみんな仲良く元気いっぱい。「スポーツを通しての仲間づくりはとても大切なこと」と島貫潤一郎監督は話します。また、しっかりしたあいさつ・返事・後片付けの指導も忘れません。今年度は一人ひとりがバレーボールの基本技術を身につけることを目標にがんばってきました。春からさらに団員がたくさん入団して仲間が増えることを楽しみにしています。

島貫監督にとって
バレーボールとは…



◀島貫潤一郎監督

体と心を鍛えることが
できるスポーツ

「仕事の学校」

連載
随想

町長の見て歩き

22

後藤 幸平

仕事の学校なら高等職業訓練校が隣町にあるじゃないかとの声が聞こえそうである。しかし、ここでの仕事の学校は、職業訓練校よりもっと身近な地域の中での仕事づくりを構想したものである。これからの企画の話である。若者の定住や所得の場の確保が急務である。なぜ飯豊で暮らせないのかと問えば、迷わず返ってくる答えが、田舎には「仕事が無い」である。

本当に仕事が無いかと言えば違う。仕事は山のようにある。地域の座談会に出席してみれば分かる。道路、防雪柵、景観、街灯、空き家対策、住宅地造成、商業施設、きれいな川とおいしい水、下水排水対策、結婚と子育て、高齢者の安心生活、森林の荒廃など盛りだくさんである。打ち出される課題の数々は解決までは十数年はかかるかと思われるほどの量であり、公共事業だけでこなせるものではないのではと考え込んでしまふ。この課題解決が仕事につながるものだろうか。

いま話題の中心は農業の六次産業

化である。農家の手元に残るのは原料としての対価のみであり、もつと手を加え付加価値をつけて農家所得を向上させたい、その対策である。

また工業で、生産性向上のために分業が効率的であることを疑う人はいない。しかし、分業で大量生産し、コスト競争を繰り返す方法では生き残りは難しいことが指摘され出した。手づくりで高品質のものをブランド化して安売りはしない。高付加価値化、それがこれからの日本のもの作りだという。

実はそんな手づくりの技術は、農村に金鉱脈のように埋もれている。これを発掘し仕事の達人制度を取り入れ若者に伝承する。若者が学び仕事に生かす。生活を支える所得につながる。地域の課題を、地域の資源と技術、人材の活用で解決する。そんな仕事のシステムは実現不可能だろうか。

仕事の達人が教え、若者が学び暮らしの糧を得る若者人材センター「仕事の学校」。事業構想中である。

【お詫びと訂正】先月号の「町長の見て歩き」の題目は、「結婚のすすめ」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

にぎわい茶房 協力店募集

町民の方や町内に訪れる方が気軽に飲食できる場所とてなしを提供する、「にぎわい茶房」の協力店を募集します。

◆協力内容

- ①町民または町に訪れる方が集う場所の提供
- ②「にぎわいメニュー」の提供
※メニューの内容は、協力店にお任せします
- ③町が支給する「にぎわい茶房」の「のぼり旗」と「ウェルカムボード」の設置
- ④町民または町に訪れる方への様々な情報提供

◆協力期間

平成23年4月～平成24年3月

◆協力料／茶房として運営した日のうち

利用者があり、もてなしを行った日。

1日につき700円。

※もてなしを行わなかった日は協力料の対象日に含まれません。

◆応募資格

- ①町内において飲食業または小売業などを営んでいるか、今後営む見込みがあること
- ②協力店の営業日のうち、1日2時間程度（11時から14時を除く）を「にぎわい茶房」として協力できること

◆募集要項など／募集要項や応募に係る書類は、役場総務企画課プロジェクト推進室にて配布します

※町ホームページからも入手することができます

◆応募方法／必要書類を記入のうえ、役場総務企画課プロジェクト推進室へ提出してください

◆応募期間／3月30日(水)まで

土曜・日曜・祝日を除く8:30～17:00

◆申込・問合せ先

役場総務企画課プロジェクト推進室
☎72-2111内線230・232

平成23年度分

広報いいで定期購読の申し込みを受け付けます



“広報いいで”は
飯豊の魅力を発信する
町の生活情報誌！

「広報いいで」は、町外に暮らす皆さんにもお届けできます。どうぞご親戚、お友達に紹介ください。

◆申し込み方法

電話、郵便、ファックス、Eメールにて申し込みください。その際、次のことについて必ずお伝えください。

住所・氏名・電話番号（日中連絡のつくもの）

※今回より「申込はがき」はなくなりました。

◆定期購読料／年額2,200円（送料込）

※400円を追加して町議会報も購読できます。

◆代金支払い方法

申し込みをいただいた方に、納入通知書または郵便局取り扱いの代金振込書を送付します。そちらに記載された納付期限日まで、金融機関窓口などでお支払いください。

◆配達方法

代金の入金を確認でき次第、毎月広報本号を発送します。

過去10年分を1冊にまとめた「広報いいで縮刷版」も販売中です。お気軽にお問い合わせください！

Recuced-sized Edition	
広報いいで縮刷版	◎第1巻／1954年創刊号～1983年3月号 価格：3,300円（消費税・送料込）
	◎第2巻／1983年4月号～1998年3月号 価格：4,000円（消費税・送料込）
	◎第3巻／1998年4月号～2008年4月号 価格：4,000円（消費税・送料込）
	◎A4版・布製表紙・ケース付き
	◎各巻組み合わせでの販売も可能です

※各巻の販売は、在庫が無くなり次第終了します。

◆申込・問合せ先

〒999-0696 山形県西置賜郡飯豊町大字樁2888
飯豊町役場総務企画課総務情報室
☎0238-72-2111内線225 FAX0238-72-3827
E-Mail i-soumujoho@town.iide.yamagata.jp

飯豊町役場
電話 0238-72-2111
FAX 72-3827
ホームページ www.town.iide.yamagata.jp
Eメール iide-info@town.iide.yamagata.jp



「あ～す」	☎72-3111	社会福祉協議会	☎72-3353	東部地区公民館	☎74-2447
町健康福祉課	☎86-2233	ひめさゆり荘	☎74-2011	西部地区公民館	☎75-2111
介護老人保健施設	☎86-2117	スポーツセンター	☎72-3086	中津川地区公民館	☎77-2020
国民健康保険診療所	☎72-2300	中部地区公民館	☎72-2126	飯豊駐在所	☎72-2245
附属中津川診療所	☎77-2330	白樺地区公民館	☎72-2242	中津川駐在所	☎77-2110

自動車事故被害者の救済制度のお知らせ

自動車事故で重度の後遺症が残った方や、亡くなられた方（加害者・被害者問わず）のご家族を救済するため、次の制度があります。

◆交通遺児等育成資金制度（無利子貸付）

◇貸付金額／一時金155,000円
月々20,000円

◇貸付条件／市町村民税が非課税または均等割りのみ課税など

◇対象／0歳から中学3年生までのお子様

◇利子／無利子

◇返還方法／割賦による20年以内の均等払い（返還の猶予制度あり）

◆介護料支給制度

◇受給資格

自動車事故により重度の後遺症が残ったため常時または随時の介護を必要とする方

◇支給額／月額29,290円～136,880円
※障がいの程度、介護に要する費用に応じて支給

◆申込・問合せ先

自動車事故対策機構山形支所
☎023-609-0500

東北療護センター入院施設のご案内

東北療護センターは、自動車事故により、脳を損傷し、重度の精神神経障害が継続する状態にあり、治療および常時の介護を必要とする方のための入院施設です。お困りの方はどうぞ相談ください。

◆申込・問合せ先

仙台市太白区長町南四丁目20-6
東北療護センター☎022-247-1171

白川湖畔自然観察会参加者募集

◆日時／3月26日(土) 9:30～13:00

◆コース(予定)／ホテルフォレストいいいで集合→大雪原かんじきトレッキング→自然観察→ブナの巨木探し→昼食(ホテルフォレストいいいで)→解散

◆参加費／500円(昼食代)

◆申込締切／3月23日(水)まで

◆申込方法／下記へ電話で申し込み

◆申込・問合せ先／役場総務企画課総合政策室☎72-2111内線227

長井ダム竣工に伴うパネル展の開催について

3月20日、長井ダムが竣工式を迎えることになりました。これに伴い、野川まなび館では、長井ダムパネル展を開催します。どうぞご来館ください。なお、竣工式開催中は県道木地山九野本線の通行規制が行われる予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。

◆開館時間／10:00～16:00

◆問合せ先／東北地方整備局長井ダム工事事務所☎88-5181

山形地方法務局からのお知らせ

山形地方法務局米沢支局における商業・法人登記事務について、3月28日(月)から山形地方法務局登記部門(山形市)で取り扱うこととなりますのでお知らせします。なお、登記事項証明書、印鑑証明書などの交付事務は引き続き米沢支局においても取り扱います。

◆問合せ先

山形地方法務局登記部門
☎023-625-1619
山形地方法務局米沢支局
☎0238-22-2148

町営住宅施設の管理人を募集します

◆職種／町営住宅施設管理人

(町営住宅3団地・いいでハイツ)

◆業務／施設巡視、施設維持管理(簡易修繕・清掃・草刈・除雪など)、各種届出受付(書類交付および説明)、各種相談受付などの業務

◆募集人数／1名

◆勤務条件

◇賃金／町の規定による

◇期間／平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

◇勤務日／週3日(月・水・金曜日)および隔週日曜日(第2・第4日曜日)

◇勤務時間／午前8時から午後12時までの4時間(ただし作業内容によっては午後の勤務を要する)

◇休日／勤務日以外の平日、土曜日、隔週日曜日、祝祭日、年末年始

◇その他／社会保険・雇用保険なし

◆応募資格

◇普通自動車運転免許を有していること
◇草刈機や除雪機などの機械を操作できること

◇性別・住所は問いませんが、職員と同様に業務上知り得た情報の秘密保持や公正公平な事務執行を行うことができることとします。施設管理経験者を優遇します

◆申込方法／下記問合せ先で交付する申込用紙に必要事項を記載して提出

◆申込期間／3月11日(金)から18日(金)まで(土・日・祝祭日を除く)

◆決定方法／申込書による書類選考または面接の上、雇用通知書を送付します

◆申込・問合せ先／役場地域整備課建設室☎72-2111内線157

戸籍の窓

(2月届け出分)

ご結婚おめでとうございます

住所	氏名
(中 山 口 幸 則さん 小 国 町 齋 藤 親 さん)	
(添 川 中 村 安 之さん 添 川 高 橋 真 代さん)	

お誕生おめでとうございます

住所	氏名	ご両親
高峰 旭 美 優ちゃん	(昌 也 梓)	
椿 井 上 烈 斗くん	(智 明 恵)	
椿 伊 藤 咲 弥くん	(晃 さゆり 徳り)	
添川 船 山 莉 蘭ちゃん	(源 浩 恵)	
手ノ子 鈴木 遥 斗くん	(一 葉 毅)	

心からおくやみ申し上げます

住所	氏名	年齢
上原 伊 藤 宇 一さん	87	
椿 辻 横 沢 栄 一さん	82	
中 酒 町 嶋 貫 三 郎さん	82	
中 中北 佐 藤 千 歳さん	85	
椿 厚生 遠 藤 イ セさん	86	
萩生 町西 土 屋 ハルエさん	70	
松原 渡 部 武 さん	81	
椿 辻 船 山 健二郎さん	91	
椿 厚生 田 辺 幸 雄さん	70	
黒沢 深淵東 大 澤 コ ウさん	100	
松原 横 山 倅 一さん	76	
添川 (ひめさゆり) 小笠原 ヨ ネさん	90	

※この欄に掲載を望まない場合は届出の際にお申し出てください。

人の動き

		2月分 () 内は対前月比		
世帯数	2,382 (-5)	転入	7	
人	男	3,973 (-6)	転出	15
	女	4,204 (-8)	出生	5
口 計	8,177 (-14)	死亡	12	

千代田クリーンセンター
再生品の提供について

千代田クリーンセンター「くりえいと工房」では、粗大ごみとして搬入された自転車や家具を修理再生し、地域の皆さんへ無償で提供しています。

- ◆提供品／自転車10台・家具類5点 (1回開催あたりの予定数)
- ◆応募方法／備え付けの申込用紙による
- ◆受付日時／日曜・祝日を除く9:00～16:00まで

- 【第1回 4・5月期】
- ◇展示期間／4月5日(火)～5月7日(出)
- ◇公開抽選／5月10日(火) 10:00
- ◇引取期限／5月21日(出)
- 【第2回 6・7月期】
- ◇展示期間／6月2日(木)～7月2日(出)
- ◇公開抽選／7月5日(火) 10:00
- ◇引取期限／7月16日(出)
- 【第3回 8・9月期】
- ◇展示期間／8月3日(水)～9月3日(出)
- ◇公開抽選／9月6日(火) 10:00
- ◇引取期限／9月17日(出)

- 【第4回 10・11・12月期】
- ◇展示期間／10月13日(木)～12月3日(出)
- ◇公開抽選／12月6日(火) 10:00
- ◇引取期限／12月17日(出)

- ◆留意点
- ①1回の展示で1世帯につき自転車・家具それぞれ1つまでの申し込みです。1世帯で複数の申し込みがあった場合は無効となります
- ②1点に複数の申し込みがあった場合は抽選となります
- ③応募には運転免許証など身分証明書が必要です
- ◆申込・問合せ先／千代田クリーンセンター施設第2係 ☎0238-57-4004

消費生活法律相談

契約トラブル、借金などの相談に弁護士が無料でアドバイスします。

- ◆日時／3月17日(木) 13:30～15:30
- ◆場所／置賜消費生活センター (米沢市・置賜総合支庁内)
- ◆申込方法／下記まで電話で事前予約
- ◆予約・問合せ先／置賜消費生活センター ☎0238-24-0999

障がい者なんでも相談室

障がいのある方の悩みごとや困りごとの相談を受け付けています。

- ◆受付日時／月曜～金曜日 9:00～17:00
- ◆相談員
- ①法律相談／弁護士 (要予約)
- ②一般相談／社会福祉士
- ◆相談料／無料
- ◆相談方法／電話・手紙・FAX・来所
- ◆問合せ先／山形県障がい者社会参加推進センター (山形県身体障害者福祉会館内) ☎023-687-5333(兼FAX)

高齢者をだまそうとする
不審な電話・訪問者に注意

市町村職員などといつわり、高齢者をねらった不審な電話や訪問者が全国的に数多く報告されています。

医療費の還付や保険証更新の手数料の請求などの不審な電話や訪問があった場合、絶対にお金を渡したり振り込んだりせずに、職員証を確認するか、名前・電話番号を聞き、すぐに最寄りの警察に連絡・相談するか、下記までお問い合わせください。

- ◆問合せ先／役場住民税務課住民室 (後期高齢者医療担当) ☎72-2111内線122・124

◇中津川地区へ取材に行くたび、その住民パワーに敬意を抱かずにはいられません。山村の窮状を自分たちの力で打破しようとする気概が伝わってくるからです。▽同地区の雪祭りは、30年以上続く、交流人口増加を目指した住民手づくりの冬の祭典。さらには定住対策や学校存続など地区の課題に対し真摯に向き合い、検討会議や勉強会を継続しています。▽中には無駄だかもしないほうがいいという人もいます。でもやらぬよりも今やった方が将来後悔はしない。中津川むらづくり協議会副会長の伊藤和憲さんの言葉。胸に染みます。(横山)



住民が演出する「雪」と「炎」の祭典 2月26日・白川ダム湖岸公園

中津川雪祭り

中津川地区住民による手づくりの冬の祭典「中津川雪祭り」。今年も町内外から親子連れなど多くのお客さままでにぎわった。華やかな舞台の裏には、住民パワーを結集し、地区の「にぎわい再現」を目指す熱い思いが込められている。



Photograph

①白川部落の皆さんが作った高さ9mにもおよぶ宮殿の雪像。見る者をメルヘンの世界へ誘う
②巨大紙風船の絵を張り合わせる中津川地区公民館運営委員などの皆さん。確実に空へ飛ばすために慎重で正確な作業が求められる ③雪壁にろうそくをともし、お客さまを迎える。今年白川ダムから白川ダム湖岸公園まで全長約5kmの「暖(あった)回廊」が設けられ話題となった ④親子連れのお客さまが多数来場し、もちや豚汁などをおいしそうにほお張っていた ⑤巨大紙風船が立ち上がると、会場からひととき大きな歓声が上がった

第31回中津川雪祭りは、2月26日、白川ダム湖岸公園で行われ、親子連れなど多数のお客さままでにぎわった。「知らない人同士が同じ火を囲み、交流という温かい雰囲気を楽しんでもらいたい」と中津川むらづくり協議会の高橋亮会長(白川)は、にぎわう会場に声を弾ませた。雪祭りは、中津川地区住民による手づくりのイベント。会場を取り巻くアニメキャラクターなどの雪像群は、部落単位で製作したもの。中でもメインとなる建築物の巨大雪像は、毎年、白川部落が担当している。今年ロシアの宮殿を模した雪像に挑み、そのスケールと精緻さで来場者を圧倒させた。「製作中、気温が高かったり、雨降りだったり条件は大変でしたが、みんなで協力し、満足のいくものができました」と白川部落長の齋藤真喜雄さんは胸を張る。

午後6時、祭りのメインとなる「炎の祭典」が始まる。中でも多くのお客さまを魅了してやまないのが、巨大紙風船の打ち上げだ。今年過去最多の8基の巨大紙風船が登場。にぎわい再現プロジェクト委員会も製作に初参加した。風船には各出展団体による絵やメッセージが描かれている。炎の熱で巨大紙風船が膨らんで立ち上がると、闇夜にまるで絵巻物のように浮かび上がる。そして空に高く舞い上がると、会場から大きな拍手が沸き起こった。紙風船の素材は業務用の障子紙。一枚の大きさは最大で幅3畳、長さ6畳にもなる。それに絵を描き、4枚張り合わせて出来上がる。各団体から寄せられた絵を張り合わせる作業は、主に中津川地区公民館運営委員の皆さんが担当。薄い紙だけに慎重な扱いが求められる。作業には手間と時間を要する。委員の方は、仕事帰りの夜、公民館に集い、5週間かけて8基を作り上げた。「みんなできつづくべ(作ろう)雪祭り」。今年の祭りのキャッチフレーズのとおり、催し一つ一つに住民の労力と情熱が込められていた。



にぎわいの
再現!

にぎわい再現の目標を込めた
巨大紙風船は夜空に高く舞い上がった

文化財は、郷土の歴史、民俗、信仰、自然を物語る町の宝。継承し守り続けている人たちがいるから輝く価値がある。



写真/左から制叱迦（せいたか）童子像、不動明王像、矜羯羅（こんがら）童子像

Treasures in Iide Town

6

selection

木造不動明王及び二童子立像

平成13年山形県指定有形文化財（彫刻）指定

Interview

守り続ける人たち



常福院を管理する

山口 ふみよし さん
（添川）

文化財を守る上で、自然災害が心配

木造不動明王は、およそ130年ほど前に西川町の大日寺（現在の湯殿山神社）から譲り受け、常福院の檀家の皆さんによって運んできたものと聞いています。それから長きに渡り地元の方々の信仰の対象として大切にされてきました。

私の知る限りで、立像は過去2回大きな自然災害に遭いました。一つは、昭和39年の新潟地震です。墓石が倒れ、川がにごるほどの大きな揺れでしたが、幸いに前向きに傾いた程度で、倒れることはありませんでした。二つ目は昭和42年の羽越水害です。このときは仏壇が高かったおかげで浸水をまぬがれました。文化財を管理し、守る上で、いつ起こるかわからない自然災害がやはり一番心配です。

解説

木造不動明王及び二童子立像

飯豊でも中世より湯殿山信仰は盛んであり、西川町大井沢のルートを利用した。大井沢の湯殿山別当寺は大日寺であったが明治10年ごろに神仏分離によって廃寺となり、三尊像は縁あって常福院が譲り受けた。

不動明王像は像高182cmの巨像で227cmの火災後背を背景としている。寄木造りで色彩もあでやかでほとんど損傷がない。彫法は写実的で肉付きや衣のひだには力強さを感じられ、中央仏師の作を思わせる。脇侍として左脇に矜羯羅（こんがら）童子像、右脇に制叱迦（せいたか）童子像が安置され、いずれも約92.5cmの寄木造りで、彩色がほどこされている。制作時代は室町初期あたりに推定され、この時期の不動三尊像としては出色のきばえを示している。

三尊像は平成13年12月に有形文化財（彫刻）として県の指定を受けた。

※別当寺：神仏習合が許されていた江戸時代以前に、神社に付属して置かれた寺のこと。